



## 第3次 坂井市地域福祉活動計画

(かたいけのプラン)

# アクションレポート

【令和3年度版】

～みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり～



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

## はじめに

令和2年度に策定しました「第3次かたいけのプラン（坂井市地域福祉活動計画）」は、令和3年度、推進期間の1年目を迎えました。

少子高齢化や核家族化、地域社会の希薄化、多発する自然災害、コロナウイルス感染症の流行等、私たちの生活スタイルは変化し、ふだんの暮らしにおいても、様々な新たな福祉課題に直面しています。しかし、いつの時代も変わらず、地域で暮らす人々が日常の中で、自分たちの生活を良くする福祉活動を行い、「ふだんの暮らしのしあわせづくり」をしています。

本計画は、行政の「地域福祉計画」と連携しながら、「地域共生社会の実現」を目指し、地域住民やボランティア、関係機関等の協働による住民主体の地域福祉活動を計画的、具体的にすすめていくことを目的とした行動計画です。

本年度も、この計画とともに、多くの『主役たち』が、坂井市の人々の『ふだんの暮らしのしあわせ』を願い、活動に取り組みました。

本アクションレポートでは、本年度に市内で取り組まれた活動をご紹介します。

すべての活動は紹介できませんが、本計画の実施とともに、この坂井市に住む人々の幸せを願い、暮らしを支える『主役たち』の「想い」の一部をご紹介します。

最後に、本アクションレポート作成にあたり、本計画の推進検討にご協力をくださいました推進委員会、支部社協委員会の委員のみなさま、本計画とともに地域福祉を支える「地域福祉計画」の推進を行っている行政のみなさま、そして、なにより、本年度、坂井市内で地域福祉活動にご尽力をくださいました地域住民、ボランティア、関係団体のみなさまに感謝を申し上げます。

令和4年3月

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

# 目次

## 市地域福祉推進計画

### アクションレポート 00

坂井市地域福祉推進計画	1
-------------	---

## 支部住民福祉活動計画

### アクションレポート 01

みくに支部住民福祉活動計画	10
---------------	----

### アクションレポート 02

まるおか支部住民福祉活動計画	12
----------------	----

### アクションレポート 03

はるえ支部住民福祉活動計画	14
---------------	----

### アクションレポート 04

さかい支部住民福祉活動計画	16
---------------	----

## STORYS～ストーリーズ～

表紙を彩る主役たち	18
-----------	----

# 市地域福祉推進計画

## 【基本目標】

# みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり

## 基本計画1 お互いさまのところで支えあえる人づくり

### 【実施計画1】 おもいあえる心を育てよう

#### ●各種委員会で地域の福祉活動についての検討中

計画策定時から、活動者のみなさんが特に大切にしている想いが「おもいあえる心を育てる」地域づくりです。

ふだんのくらしの中で、あいさつや人のつながりがある地域となるように、支部社協委員会や福祉委員会など、各種委員会で、各支部住民福祉活動計画の内容実現に向けて話し合いを行っています。

また、市内まちづくり協議会においても「まちづくり計画」策定のためのワークショップが開始され、福祉活動者が参加するとともにまちづくりの活動の中でも福祉活動に関する意見が活発に出されています。



～支部社協委員会の様子～

### 【実施計画2】 福祉に関する広報・啓発をしよう

#### ●各種活動紹介冊子や事例集を更新

ホームページや社協だより等の平常時の広報活動はもちろんのこと、本年度は、コロナ禍を受けての活動の情報提供を目指し、「ボランティア団体紹介冊子」や「福祉委員活動事例集」を更新しました。



### 令和4年度に向けて～推進委員から～

第3次計画の目玉は、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定しているところにあると考える。そのように考えると、今後の活動計画の実践報告には、より市と社協が連携して行っている内容を記載し、住民と社協と市が協働しながら、実践していることを市民に伝えていくことが大切ではないか。また、両計画の共通事項であるまちづくり協議会との連携については、今後の5年間でどんな連携をとっていくことが良いのか、福祉分野だけでなく、所管課と連携し、進めていく必要がある。

## 【実施計画3】 福祉について学ぶ機会をつくろう

### ●市内24校が独自の福祉学習を実施

市内の各学校では、例年実施されている車いす体験やインスタントシニア（高齢者疑似体験）などの体験型授業や、視覚障がい者など当事者講師との交流授業はもちろん本年度は、パラリンピック開催にちなみ、障がい者スポーツを体験するなど、様々な福祉学習が実施されました。



～福祉教育サポーターとの福祉体験の様子～

### ●高校生が地域住民とともに地域課題解決に一役

丸岡高校では、授業の一環で、「まちづくり」、「健康・福祉」、「食」、「地域活性」、「IT・情報・ビジネス」、「少子高齢」等のテーマから、生徒が自分でテーマを選び、地域の様々な企業や団体等と協働パートナーを結びながら、課題解決となる活動を企画しています。少子高齢のテーマでは、「高齢者に優しいまちづくり」を目指し、地域のボランティア団体とともに、高齢者運動会の企画など、生徒の柔軟なアイデアで新たな地域課題の解決が始まっています。

## 【実施計画4】 一人ひとりが活躍できる活動を地域ですすめよう

### ●当事者団体による作品展等が市内で開催

シニアクラブによる高齢者作品展（ハートピア春江会場）や障がい者団体による作品展（市役所等）などが開催され、当事者アーティストたちの作品が会場を彩りました。



～当事者団体の作品展の様子～

## 【実施計画5】 福祉の担い手を増やそう

### ●子ども発信!! 地域を元気にする活動実施

「地元の海をきれいにしたい!!」という想いから、中学生の子どもたちのボランティアグループ「ナチュラル」が誕生しました。「ナチュラル」は、自分たちで取り組む活動を話し合い、海岸清掃や募金活動等、様々な地域活動に挑戦しています。

### ●子ども食堂連絡会実施

市内で子ども食堂に取り組む団体が増えてきたので、本年度は新たに「子ども食堂連絡会」を開催しました。

現在、各団体はコロナ禍のため状況に応じての活動となっていますが、そんな状況だからこそ、情報交換や不安・悩みを話し合う連絡会が活動継続のヒントや力になっています。



～子ども食堂連絡会の様子～



子どもたちの募金活動



## 基本計画2

# ふれあい、支え合いの地域づくり

### 【実施計画1】 誰もが集える居場所をつくろう

#### ●市内に様々な居場所が誕生

空き家を改装した居場所、コミュニティセンター等での卓球バレーや健康マージャンなどの生きがいや健康づくりの活動場所、各区での高齢者サロン、子ども食堂など、様々な地域の居場所が誕生しました。



空き家を活用した居場所

#### ～令和3年度に誕生した居場所～

##### ●空き家を利活用した居場所

- ・出村茶屋（三国）⇒地域の交流拠点、高齢者サロン等も実施



～コミュニティセンターでの居場所～

##### ●コミュニティセンターを利用した居場所

- ・西コミセン みんなのほっとカフェ（春江）  
⇒春江西コミセンにて、週1回高齢者の居場所運営。
- ・卓球バレー アーモンドファイターズ（春江）  
⇒春江東コミセンにて、週1回卓球バレーを実施。



～区でのいきいき・ふれあいサロン～

##### ●身近な地域（行政区等）でのいきいき・ふれあいサロン

※高齢者中心・トライアルサロンも含む

- ・羽崎シニアくらぶ（丸岡）
- ・木部西方寺サロン（春江）
- ・長屋サロン（坂井）



～子ども食堂～

##### ●子ども食堂

- ・子ども食堂スマイル  
(R3.3月プレオープン、4月開始)
- ・ふれあい食堂 きべ丸



～子ども食堂～

### 【実施計画2】 ご近所の気がかりな人を早期発見しよう

#### ●「地域福祉推進基礎組織(地区ふくしの会)」がワクチン接種の支援活動実施

区長、民生委員児童委員、福祉委員などの基礎組織メンバーが中心となり、「ワクチン接種の情報を知らない、手続き方法がわからない」などの理由により、ワクチン接種を希望する高齢者等が取り残されないよう、近所の気がかりな方のワクチン接種の状況把握や予約支援などを行いました。



～ワクチンサポートの様子～

市内の65歳以上の高齢者は8割が接種済みの状況での再周知でしたが、クーポン紛失や認知機能低下などの身体状況の悪化など、個別のSOSの発見連絡も社協に寄せられました。

## 【実施計画3】 地域を良くするために話し合える場をつくろう

### ●市内36の「地域福祉推進基礎組織(地区ふくしの会)」が活動中



～基礎組織での話し合いの様子～

地域の状況に応じて、見守りマップづくりや地域の福祉活動の話し合いを実施し、新たな活動を検討しています。

本年度は、災害に関するテーマや子ども食堂、高齢者サロンなどの居場所づくり、高齢者の買い物支援などの生活支援をテーマとした話し合いが各地区で行われました。

## 【実施計画4】 災害時も安心できる地域をつくろう

### ●地域の課題に応じた災害対策の活動を実施

地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）や福祉委員会等にて、災害をテーマとした研修が開催され、地域の見守り関係者が災害時要援護者支援制度等、災害時の要援護者に対する支援活動への理解を深めました。

また、自主避難の際には、本来、避難者が自分で食料等を持参する形となっていますが、高齢の避難者等の負担軽減として、一部の地域のまちづくり協議会では、食料の備蓄支援の実施検討が行われました。



～福祉委員の災害研修の様子～

### ●災害時個別避難計画にむけての話し合いと避難訓練実施

当事者との  
避難訓練の様子



近年、発生している自然災害では、高齢者や障がい者などの「災害弱者」が逃げ遅れや犠牲になるケースが多く、国では、災害避難時に支援が必要な方に対して、事前にその方に応じた具体的な避難方法を計画化する「個別避難計画」の作成を進めています。

当市においても、災害時に「災害弱者」が犠牲となることを防ぐために、障がいがある方と専門職による「個別避難計画」作成のシュミレーションや、当事者と専門職、地域住民がともに避難所までの経路を確認し、災害時の避難行動を考える避難訓練等をモデル的に実施しました。

### 令和4年度に向けて～推進委員から～

地域の居場所づくりでは、サロンの運営協力をまちづくり協議会に呼びかけたり、子ども食堂の支援を企業に声をかけ、新たな活動者の協力を得ている地域も出てきている。

今後は、商工会 青年部等にも声をかけ、若い活動者の声を聞き、活動計画推進の仲間を増やしていきたい。



～推進委員会の様子～

## 基本計画3

# 福祉活動を応援する体制づくり

## 【実施計画1】 住民と専門職のつながりをつくろう

### ●専門職が地域住民の活動をお手伝い

市社協のコミュニティソーシャルワーカーが、地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）やボランティアグループからの相談を受け、居場所づくりや地域のふくしの困りごと解決のために必要な情報提供や勉強会、活動企画・実施の支援を行いました。

また、ご本人やご家族、専門職からの地域活動の情報収集や活動参加の調整等も行いました。



～コミュニティソーシャルワーカーの  
地域訪問時の様子～

### コミュニティソーシャルワーカーとは…

地域住民や様々な団体と連携し、気がかりな人の見守りやニーズの早期発見に向けた支援を行うとともに、そこから見えてくる地域の課題について、地域の方と一緒に考え、支え合いの仕組みづくりや地域づくりの取組を支援する専門職

※「第3次坂井市地域福祉保健総合計画(令和2年度策定)」により、令和3年4月から配置。

### ●地域の関係者と専門職とのつながりづくり

地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）等のマップづくりへの地域包括支援センターの職員の訪問や、災害研修での市職員の協力、高齢者サロン等での地域包括支援センター職員や高齢者施設職員の出前講座、民生委員児童委員協議会等の定例会等での障がい相談支援事業所職員の講演等、各種地域会議にて、専門職が福祉情報の啓発やつながりづくりを行いました。

### ●市社協の「第3次社協発展・強化計画」策定開始

坂井市の地域福祉推進の中核機関として、地域の福祉活動の支援を行う組織の基盤強化のため、市社協では「第3次社協発展・強化計画」の策定に着手しました。

「発展・強化計画」とは、基本理念や基本方針の実現に向けた具体的な取組を示すもので、実施するサービスの更なる充実、課題の解決のほか、地域ニーズに基づいた新たな福祉サービスの実施なども含めた目標を明確にし、それを実現するための組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等に関する具体的な計画です。第3次計画は役員と職員と一緒に検討を行うスタイルを取り、事務局としての社協と住民組織としての社協の両側面から、組織体制の検討を行っています。



～第3次 発展・強化計画策定時の様子～

## 【実施計画2】 民間の福祉活動を広げよう

### ●民間企業の福祉活動への参画

第一生命保険株式会社福井支社春江営業オフィス様や株式会社ダイナム丸岡店様などの民間企業も地域活動へ協力くださいました。

第一生命のみなさまは、春江町内の清掃活動や職員が集めたシールを放課後等デイサービスの子どもたちへ寄付、ボランティアセンターの使用済み切手収集への協力などの活動を行ってくださいました。

ダイナム様は、子ども食堂等や生活困窮者の方の支援事業へ食料品の寄付をくださいました。また、子ども食堂を職員の方が見学し、今後の開催時に、着ぐるみでイベントを盛り上げる、力仕事の手伝いなどの協力内容を提案してくださっています。

また、福井村田製作所様や東洋羽毛北信越販売(株)北陸営業所様からは、フードドライブ実施にて、集まった食料品の寄付を頂き、市社協の事業に活用しました。



子どもたちからの手紙を受け取った活動企業の様子

### ●社会福祉法人連絡会が発足



～法人連絡会設立総会の様子～

市内 20 法人が加入し、社会福祉法人連絡会が設立しました。(令和 3 年 4 月 26 日 設立総会開催。)本年度は、運営委員会や研修会などを実施し、法人間の連携を深めました。まずは、他法人の活動を知りながら、将来的には、加入法人が連携しながら、地域課題の解決にも取り組んでいきたいとの想いをもち、取り組みを検討しています。

## 【実施計画3】 地域福祉の財源を確保しよう

### ●ファンドレイジング等の研修実施

地域福祉の財源確保の取組は、活動の理解者を増やす上でも重要であり、また、新たな財源の獲得は、自由度の高い先駆的な活動に取り組める可能性も出てきます。

今後、国や地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を民間団体等が取り組む際にも、自律的かつ持続的な団体運営や会活動を行う支援ができるよう市社協では、職員のファンドレイジング研修を開始しました。

また、「NPO 法人 全国子ども食堂支援センターむすびえ」が実施した子ども食堂運営者のためのファンドレイジングや助成金のオンライン研修会場を市社協にも設け、市内子ども食堂運営者と市社協職員が合同で受講し、民間財源等についての理解を深めました。

## ●休眠預金活用事業を開始

公的財源だけでなく、新たな財源も活用しながら、地域の福祉課題の解決に取り組むべく、市社協は、「休眠預金等活用事業」に応募し、採択を受け、「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」事業を開始しました。現在は、資金分配団体「認定 NPO 法人 全国子ども食堂支援センター むすびえ」の支援を受けながら、坂井市内の子ども食堂や高齢者サロン等、様々な居場所のネットワークが充実し、地域活動の活性化につながるように、居場所の可視化やネットワーク化の検討を行っています。

### 休眠預金活用とは…

休眠預金等活用法に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度です。

市社協は、休眠預金を財源にした日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の事業の一つで、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえを通した「子ども食堂を始めとした地域の居場所支援団体のネットワーク構築」を目的とした助成事業に応募しました。

## 地域の居場所 × 自分のできること

約40年間もの間、指定難病である全身性エリトマトーデス※で闘病しているAさん。以前は通院の帰りなどに買物などもできていたが、コロナ禍により病院と家の往復だけになってしまったそうです。そのような中、何かしようと思い立ちハーモニカを始めました。今回、地区のサロンでハーモニカ演奏の機会がありサロン参加者の前で演奏を行いました。「何度も挫折したこともあったけど、このようなチャンスがめぐってきた」とAさんは話されました。

※全身性エリトマトーデスとは

発熱、全身倦怠感などの炎症を思わせる症状と、関節、皮膚、そして腎臓、肺、中枢神経などの内臓のさまざまな症状が一度に、あるいは経過とともに起こってきます。その原因は、今のところわかっていません。



## ～住民と専門職のつながりづくりについてのみなさんの声～

### 【地域の見守り支援者】

- ・自分たちが気になり見守っている方に専門職も関わっていることが多いため、普段から情報交換をしたい。
- ・いろいろな相談窓口が増え、余計にわかりにくくなったため、そのことを学びたい。

### 【専門職】

- ・隣近所の方の理解や協力等が必要な方が増えており、地域との連携が重要。

# 支部地域福祉活動計画

## 【スローガン】

やさしさと あたたかさで  
みんなが安心して住める街 みくに

### 基本項目1

#### 居場所づくり

##### ●サロン見学会の実施

「地域に新しい居場所を立ち上げたい！」「自分の地域のサロンを充実させたい！」などの思いから、地区ふくしの会同士のサロン見学会を実施しました。

見学に行かれた方々は、立ち上げの際の想いや、活動のノウハウなど伺ったり、実際の活動に参加したりしながら、自身の活動への思いを強めました。



～上錦健康推進倶楽部見学～



～実践報告～

##### ●「ふくしのつどい」での実践報告

身近な場所での居場所づくりの応援として、「ふくしのつどい」で居場所づくりの実践報告を行いました。

当日は、4月にオープンした地域の新しい居場所「出村北前茶屋」の活動者の話を聞き、地元（四の部）への熱い想いをどのように形にしたのか、立ち上げ後の地域の反応など、実践者にしかできない話を聞く、よい機会になりました。

### 基本項目2

#### つながりづくり

##### ●団体間の活動紹介・情報交換を実施

支部社協委員会では、活動計画の内容を具体化するために、カードワークを行いました。その中で、各団体の「今やっている活動」と「これからやりたい活動」をかけあわせ、団体同士の連携を生み、活動へつなげる方法を考えました。

ワークを通じて、【まちづくり協議会の「防災訓練実施」×地区ふくしの会の「防災研修を行いたい」】などのアイデアも出され、それぞれの団体の普段の活動から「無理のないつながりづくり」を行うことで、活動を実現する形も見えてきました。



～みくに支部社協委員会～

## 基本項目 3 地区ふくしの会の充実

### ●ふくしの会活動調査実施

町内ふくしの会会長を対象に、活動調査のアンケートを実施しました。調査では、ふくしの会の構成メンバー、活動内容などを確認し、会長連絡会で結果報告を行いました。

連絡会では、アンケートから見えてきた、各ふくしの会の現状や課題が共有され、今後も連絡会での協議を継続し、課題解決に取り組むことで同意を得ました。

また、調査とその後の協議を通して、これまで、区長、民生委員児童委員、福祉委員のそれぞれが、個別に見守り活動を行っていた地区でも、他地区の活動にならって、三者の連絡会を開催する例も見られ、地区ふくしの会の活動の充実にもつながりました。

#### 地区ふくしの会 活動アンケート

※締切：11月22日（月）

連絡会の当日は、このアンケート結果に応じて、各ふくしの会の活動状況や課題、また、今後の活動についてなど協議できたらと考えています。把握されている範囲での回答で大丈夫です。お手数ですが、以下の欄にお答えいただき、同封の返信用封筒、もしくはFAXにてご返送ください。お電話での回答でも結構です。



～三者連絡会～

## 基本項目 4 安心して暮らせる地域づくり

### ●高齢者の生活支援

公園台地区では、高齢者の地域生活を支援するために、地区ふくしの会が、サロン開催時に三国町内の便利なサービスの説明会を開催しました。食事や買い物、移動などの事業所の紹介に加えて、一番大切なのは、「困りごとを自分一人で抱えないことである」との説明があり、なにかあった際の相談窓口として、改めて民生委員児童委員や包括支援センター、社協などの連絡先の確認を行いました。



～公園台サロンでの説明会～

### ～支部社協委員からのメッセージ～

今年度、みくに支部社協委員会で取り組んだカードワークでは、これまで知っているようで知らなかった各団体の活動を確認し合うことができ、委員同士が自分たちの手でそれをつなげていく過程のなかで、本当にたくさんの活動のアイデアが生まれました。

三国町内でも、コロナ禍で、活動が難しい状況ですが、その分考えたり話し合ったりする機会が増え、自分たちの団体の足元を見直すきっかけとなる1年だったように思います。

来年度は、今年度温めた企画を実践に移していけるよう、さらに協議を進めていきたいと思えます。

【スローガン】

広げよう地域に根ざした思いやり

～1人も見逃さない絆づくり～

基本項目1

つながりづくり

●ボランティア活動の促進

2年ぶりにボランティアのつどいを開催しました。例年はボランティア活動の啓発を目的とし、一般の方々向けに開催していましたが、今年度はボランティア団体自身が学べる場、そして他団体とつながれる場になるように開催内容を改め、実施しました。

コロナ禍で活動ができず、意欲低下している団体もありましたが、前向きに活動を継続してもらおうキッカケとなりました。



～ボランティアのつどい～

●障がい者を孤独にさせない土壌づくり

障がいについて正しく理解してもらうために、地域のボランティアへ声をかけ、障がい特性理解講座を開催しました。その後、実際に当事者と関わってもらい、就労準備のお手伝いをしてもらいました。ボランティアからは、「障がい分野にも今後、目を向けていきたい」といった声がありました。



障がい特性理解講座↑

当事者との関わり→

基本項目2

連携づくり

●連携するための準備

支部社協委員会にて所属する団体の連携を強化していくために団体紹介シートを用いて情報交換を実施しました。「こんな活動、知らなかった」、「こんな場面だったら力を貸せる」などの声もあり、委員同士の距離を縮めるきっかけとなりました。

まるおか支部社協団体紹介シートMR3.9.2&使用

第3次支部社協活動計画で「組織連携強化」について本団体として取り組んでいます。まずは、まるおか支部社協委員会に所属する団体の紹介をお願いします。

① 自分が所属する団体で行っていること

② 他の団体に手伝ってほしいこと

③ 他の団体に自分の団体が協力できそうなこと

団体名：

～団体紹介シート～

## 基本項目 3

# 見守りの仕組みづくり

### ●福祉マップづくりの開催

今年はマップづくりが6カ所で開催されました。その内1カ所は、去年コロナ禍のため開催が出来ていなかったところで、感染対策を工夫しながら2年ぶりに開催することができました。

福祉マップづくりは、区長や民生委員・児童委員、福祉委員などの福祉関係者で心配な方を確認しあい、キーワードを書き込むなど、個人や地域の情報を直接地図に落とし込み、目に見える形にしたもので、町内の見守りネットワークの強化に繋がっています。



～福祉マップづくり～

### ●新型コロナウイルス ワクチン接種の声かけ

ワクチン接種は任意ののですが、なかには接種したくても出来ない方がいます。一部のふくしの会では、福祉関係者が協働し、そのような方々が、一人で悩みを抱え込まないように訪問するなどの工夫がされています。

## 基本項目 4

# 子どもの参加・こころづくり

### ●丸岡高校とのマッチング

支部社協委員会にて、今後、丸岡高校の学生と地域と一緒に活動していくために、丸岡高校が実施する地域協働活動の『これまで』と『これから』などについて先生から紹介してもらいました。今後は、福祉団体と生徒が地域のなかでどう交わっていくかを検討していきます。

また今年度は、生徒から『自分の力を活かして地域貢献したい』という声があり、コロナ禍で急増する外国人相談者のために、坂井市福祉総合相談室のパンフレットを英訳してもらいました。一人でも多くの方がサービスを理解し、利用できるようにという、生徒の想いが形になりました。

これらのことから、今年は、丸岡高校との協働に向け、大きく近づいた1年となりました。



～丸岡高校からの活動紹介を  
聞く支部社協委員会～

## ～支部社協委員からのメッセージ～

今年もコロナ禍で活動が出来る時、出来ない時の波があったかと思います。ただ、今年は活動や想いを繋ぎとめるための仕掛けが丸岡町内の至る所で実践されていたように感じます。また、様々な団体の話を聞いていると、やはり人材不足が課題になっているようです。来年度は、丸岡高校や小中学校、企業などとも繋がり、丸岡町全体で課題を1つ1つ解決していきたいです。

【スローガン】  
思いやり 広がる地域に 幸せの輪

基本項目1 人財発掘・育成

●組織間の情報交換や福祉活動の理解・啓発実施

支部社協委員会では、はるえ支部内の地域福祉活動の活性化を目指し、年間を通じて、支部管内の地域福祉活動の情報交換や福祉活動の推進のための取組み検討を行いました。新たな取組みとして本年度は、平和堂アミ前にて、共同募金の街頭募金を行いました。



共同募金  
街頭募金



～はるえ支部社協委員会～

●福祉の人財「福祉委員」の地区別委員会実施

地区福祉委員会



本年度はこれまでの取組みを充実させるため、福祉委員の資質向上と福祉委員同士の横のつながりづくりを目的とし、各地区（コミセン単位）の福祉委員会を開催しました。

高齢者の除雪の相談やコロナ禍の影響を受けて中止となった敬老会のかわりに品物をお届けした際の様子、また、ご近所だから気づける地域の課題など、様々な意見が出されていました。

基本項目2 場づくり

●コミセンや地域に様々な居場所が誕生

「卓球バレー アーモンドファイターズ（春江西コミセン）」や「西コミセン みんなのほっとカフェ（春江西コミセン）」などの身近なコミュニティセンター等を活用した居場所や地区ふくしの会がサロン未実施区のサロン立ち上げを応援する「トライアルサロン」など、様々な居場所づくりが行われました。



～西コミセン みんなのほっとカフェ  
&  
トライアルサロンチラシ～

## 基本項目3

## つながりづくり

### ●各地域のまちづくり計画策定に福祉活動者も参画

まちづくり協議会が主体となり、実施されているまちづくり計画策定のワークショップに地区ふくしの会メンバーを始めとする福祉関係者も参画し、まちづくりと福祉が連携した様々な活動のアイデアが出されています。



まちづくり計画ワークショップ

## 基本項目4

## 見守りの強化

### ●災害時に備えての研修実施



～地区ふくしの会の災害研修～

多発する災害に備えて、地区ふくしの会で災害時の要援護者支援制度やハザードマップの活用など、様々な災害研修が行われました。普段、見守り支援を行っている地区ふくしの会のメンバーは、福祉避難所に行く対象者についての質問や、区で住民同士が行える避難支援など、具体的な災害支援活動について熱心に学びを深めていました。

### ●各地区ふくしの会でのマップづくりも継続実施

災害時要援護者や一人暮らし高齢者など、地域の支援が必要と考えられる対象が増える中、ふくしの会では継続して、マップづくりが実施されています。コロナ禍にて、地域サロン等が中止となっている区もありますが、区長・民生委員児童委員・福祉委員の三者連携による小地域見守りネットワーク活動は継続されています。



～マップづくり～

## 支部社協委員からのメッセージ

第3次かたいけのプラン（6年間）の初年度は、新型コロナウイルスの世界的拡大の中、私たちの福祉活動もどのように実行すべきか悩み、活動を中止するなど、手探りの一年でした。

また、春江町では、行政区ごとにワクチンの予約困難者の洗い出しのため、地区ふくしの会や区長、民生委員・児童委員等が高齢者宅を訪ね、予約状況をお尋ねし、お聞きした課題の対応を行う活動をいたしました。

今後も、「思いやり 広がる地域に 幸せの輪」をスローガンにプランを皆さんで推進しましょう。

## 【スローガン】

「かたいけの」「おかげさんで」ぬくもり感じるまち 坂井

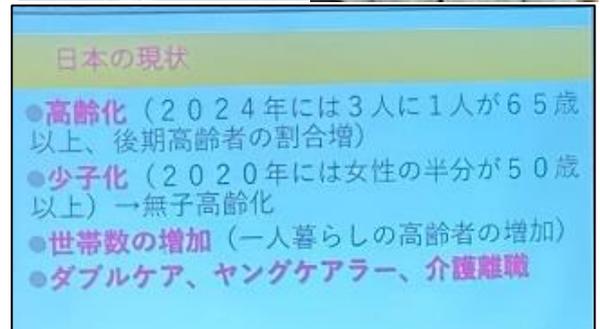
### 基本項目1 福祉の理解促進

#### ●まずは、福祉委員からスタート

東十郷地区では、福祉委員を対象に研修会を実施しました。

福井県立大学永井助教による地域福祉の講義と、県立大学生、福祉委員代表委員（コミセン長）によるパネルディスカッションを開催。

大半が2年で福祉委員を交代するため、引き続き、地域の見守りをすることの重要性や、ボランティア活動など新たな活動の紹介を行いました。



### 基本項目2 居場所づくり

#### ●地域にいろんな居場所が誕生

木部地区では、新たに子ども食堂「ふれあい食堂 きべ丸」が誕生し、町内に2か所になりました。

将来は、子どもたちとも一緒に調理し、つながりを深める予定です。



また、大関地区では、福祉委員OBと福祉委員が中心となり、老人クラブ組織の立ち上げを地域で検討中です。令和4年度から、活動を始めます。

## 基本項目3

### 見守り



#### ●もしまに備えた取り組みの充実

大関地区では、民生委員・児童委員、福祉委員連絡会での「災害時の見守り体制が不安」との声を受け、ふくしの会主催「災害研修」を実施しました。

研修会后、福祉マップと災害時見守りシートを用いて、災害時の見守り体制を確認しあいました。

## 基本項目4

### 福祉の学び

#### ●子どもと地域と学校が福祉を学ぶ取り組み

坂井中学校 3 年生とさかい支部社協委員会との交流会を 2 回実施しました。町内の福祉活動実践者が、生徒に活動紹介を行いました。

次年度は、意見交換会や今後の福祉教育への取り組みを、子どもと地域、学校と一緒に協議できるよう調整しています。



兵庫地区では、本年度もスマイルキッズ（子ども福祉委員）と兵庫地区まち協いやし部会がともに、地域福祉活動に取り組みました。

## 支部社協委員からのメッセージ

町域の福祉を考える組織（さかい支部社協委員会）では、次年度から、2つの委員会（福祉教育推進、見守り推進）を設置し、地域、子ども学校と連携しながら、できることを実践します。ワクワクドキドキとても楽しみです。

# STORYS～ストーリーズ～

## 表紙を彩る主役たち

### (上段左) 市内のこども園の園児たち

- ・本年度は、市内のこども園の5歳児が先生から共同募金のお話を聞き、送迎時に保護者に募金活動を行い共同募金委員会に募金を持ってきてくれました。  
写真は、「坂井松涛こども園の子どもたち」です。本年度行われた市内の募金運動の最年少の活動者たちです。

### (上段右) 配食サービスを行うボランティア活動者

- ・坂井市ボランティア・市民活動センターは、団体 92 団体、個人 11 名（令和3年4月1日現在）の活動者が登録を行い、市内で活動しています。  
写真は、三国町内の一人暮らし高齢者等のお宅へ見守り活動をしながら、週に1回、お弁当を配達している「老人給食配食ボランティアグループ かもめ・さくらんぼ」のみなさまです。  
弁当配達だけでなく、誕生日の利用者には、お弁当ともにお花等のプレゼントも届け、一人暮らしの方のお誕生日のお祝いなどの活動もしています。

#### ※1) 坂井市ボランティア・市民活動センター

坂井市民の方のボランティア活動に対する相談窓口。「ボランティアをしたい方」と「ボランティアをしてほしい方」をつなげる支援をしています。その他にも、ボランティア活動の広報・周知、活動に役立つ研修会等の実施、ボランティア保険の加入事務など、活動に必要な様々な支援を行っています。

### (下段1段目左) 社会福祉法人の利用者たち

- ・毎年、街頭募金を実施してくれている社会福祉法人もあります。  
写真は、「しいのみ共生会」のみなさまです。

### (下段1段目中央) 民生委員・児童委員、福祉委員

- ・市内には、民生委員・児童委員 187 名 主任児童委員含む、福祉委員 663 名（令和3年4月1日現在）の委員がいます。平常時から、一人暮らし高齢者宅への訪問活動等、身近な地域で見守り活動を実施しています。  
写真は、「三国地区の民生委員・児童委員、福祉委員」の方です。

#### ※2) 民生委員・児童委員

民生委員法に基づき委嘱された、地域住民からの社会福祉に関わる相談を受け、支援を行う人。また、民生委員は、子どもの見守りや子育ての相談等を行う「児童委員」を兼ねている。

#### 3) 福祉委員

区長の推薦により、市社協会長が委嘱。身近な地域の福祉のアンテナ役として、困りごとの早期発見や連絡、福祉の情報提供などを行っています。

#### **(下段1段目右) 小・中学生のボランティアグループ**

- ・本年度は、子どもたちが自分たちで立ち上げたボランティアグループも生まれました。  
写真は、「ボランティアグループ ナチュラル」のみなさまです。レポート内でも紹介しています。

#### **(下段2段目左) 福祉委員**

- ・写真は、「丸岡地区の福祉委員」の方で福祉委員としての紹介ですが、市内には、学校の登下校の見守り隊を行う活動者もとても多く、この写真は、その活動に参加しながらの見守り活動の様子です。

#### **(下段2段目中央) イロンナドライブ**

- ・こちらは、活動の紹介で初の試みとして、地域のイベントでボックスを設置し、ご家庭に余っている未利用食品等の寄付を頂く活動をしました。集まったものは、生活困窮者支援などの事業に活用しました。  
写真は、「イロンナドライブに品物をお持ちくださった市民」の方です。

#### **(下段2段目右) 地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）**

- ・こちらは、活動の紹介で小地域見守りネットワーク活動の一環として、見守りマップづくりを実施している様子です。市内には、コミュニティセンター以下の単位に37の基礎組織（1地区 休止中）があり、全組織のメンバーをあわせると1250人以上の人たちが市内で活動をしています。  
写真は、「春江東部ふくしの会」のみなさまの様子です。

#### ※4) 地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）

基礎組織は、区長、民生委員・児童委員、福祉委員の3者を中心に置きながら、ボランティア、シニアクラブ、まちづくり協議会等とも連携し、小地域見守りネットワーク活動の体制づくりや、見守り活動から見つかった生活上の困りごとなどを地域の課題とし、様々な地域の福祉活動をすすめている住民組織です。

**\*\*\* 「かたいけのプラン」に込めた思い \*\*\***

『かたいけの』とは、昔から、福井に伝わる方言です。

『かたい』は、健康である様を表しており、「お元気ですか？」という意味のあいさつとして「かたいけの？」と使います。

最近、耳にすることもすっかり減りましたが、身体の健康状態を尋ねるだけでなく、心の状態も気遣うことができる、優しい福井弁です。

相手を思いやる気持ちが、本計画にピッタリでないかということで、策定委員会で決まりました。